

会議記録

令和4年12月14日

- 会議名 丹波市市島地域市立小学校統合準備委員会
第12回竹田・前山地域部会
- 日時 令和4年12月13日（火）19:30～21:20
- 場所 ライフピアいちじま 研修室
- 出席者 委員：青木修、余田義信、笹倉博、荻野幸広、藤田泰生、余田亜美
足立和宏、吉見典彦、余田淳子
[事務局]
教育委員会：片山教育長、藤原部長、池内次長、足立次長、船越係長
小田、畑中
[担当課]
ふるさと定住促進課：藤浦課長、足立係長

●内 容

1 統合後の通学支援の在り方について

事務局より11/5（土）、11/29（火）に実施した前山小学校PTAとの意見交換会の結果を説明し、統合後の通学支援の在り方について委員の意見を伺った。

【意見等】

◆副部会長から意見交換会後に話し合った前山小PTAの意見の発表があった。

《要旨》

- ・意見としては各説明会の議事録に書いてある通りであり、最終的には専用バスを希望するという結論に至った。
- ・前山小PTAとしては路線バスの運行に反対しているわけではないということは理解してほしい。通学支援と地域交通の充実は分けて考えてほしい。
- ・統合準備委員会全体会では前山以外の地域の委員がいるが、これだけたくさんの協議を重ねた前山地域の意見を尊重した決定をしてほしい。

◆教育長より路線バスによる通学支援に関する市の考え方等について説明を行った。

《要旨》

- ・市内の公共交通を表した地図を見ると、市島地域だけ路線バスがない状況にあるため、生活を支えるためにも路線バスを運行したいという思いがあり路線バスを提案している。
- ・春日地域では路線バス通学を行っている児童がおり、そこでは数人の乗車だが必要な路線として維持されている。氷上西高校に通学している生徒の中にも路線バスの充実により、自転車通学が、路線バスと電車の乗り継ぎで学校まで行けるようになった方もいる。
- ・前山小校区の児童が路線バスで通学しなかったため、路線バスが運行しなかったという考えは全くない。ただし、ある程度の人数が乗車しないと路線バスの運行は難しく、竹田地区など他の地域のバスの運行がなくなってしまうことが懸念されているのは現実としてある。
- ・今後三輪小学校の統合が進み、仮に路線バスで通学するようになれば、美和地域から市島方面や丹波医療センター方面に向かう路線ができる可能性もある。そのような今後の状況も見据えて考えていただきたい。
- ・以上のようなことも考慮し、忌憚のない意見をお願いしたい。

《以下、意見交換》

- ・それだけ大事な話を前山小 PTA だけ決定するのも問題だと思う。自分たちは路線バスに反対している訳ではなく、あくまで児童の通学としてのバスの話をしている。
 - ・前山地域はバスで通学できる時点で優遇されているので路線バスでもいいのではないかと。竹田小校区では 3 km 以上ある地域で徒歩通学している児童もいる。
 - ・路線バスはこれから 10 年、20 年と続いていく事業なので後悔はしたくないと思っている。
 - ・ランドセルを背負いシートベルトの装着ができるか児童で試したところ、高学年は問題がなかったが、低学年は難しかった。
 - ・路線バスは大型二種免許が必須で、専用バスは大型一種免許で構わないと聞いた。運転手の安全面を考えると路線バスでもいいのではないかと。
 - ・何か事故があった場合、路線バスであればバス会社と市が被告になると思う。専用バスの場合は PTA も責任を被るかもしれない。その点からも路線バスでもいいと思う。
 - ・配布された『てくてくたんば』を見ると確かに市島地域に路線バスを走らせてほしいと思う。しかし、自分たちは児童の通学について話合っている訳であり、専用スクールバスを希望する声が圧倒的に多かった前山小 PTA を代表して出席しているので、路線バスという選択肢は難しい。
 - ・昔に前山地域の反対があり路線バスが運行されなかったことがあるらしく、そのことを今でも言われることがある。事務局から前山 PTA の責任にはしないと発言があったが、そういった意見を言う人は出てくると思う。統合準備委員会で決まるのは荷が重く感じる。
 - ・自分は竹田地区だが、高齢化も進む中で路線バスが運行されるのはいいことだと思う。ただし、このことは統合のこととは別で考えるべきであるので、議論することが難しい。
 - ・専用バスの通学になると路線バスの運行はやはり難しいのか。
- 朝のデマンドタクシーは 1 便でまかなえる人数の需要しかなく、毎日数人しか乗車していない状態で路線を維持するのは実際難しい。(ふるさと定住促進課)
- ・専用バスが何台も学校に向かうのはどうかと思う。将来的に 1 校になった場合は路線バス通学は出てくるはずなので、先のことを考えて路線バスも考慮してはどうか。
 - ・バス通学で路線バスの話が出てこなければ、統合協議はとてもスムーズにいったのに対立を生む形となってしまっている。無理だとは言われたが通学区間だけを専用バスにするなど柔軟な対応もお願いしたい。
 - ・鴨庄地域にはふれあいバスが運行しているのはわかっているが、路線バスを走らせるという話は全くなかった。地域的な差が生まれてしまっている。
 - ・本日いただいた意見を持ち帰って市の内部でも再度検討させてほしい。場合によっては、市長や副市長も伺うことも考えている。(教育長)
- 来ていただいても構わないが、PTA としてのスクールバスを希望するという結論は変わらないと思う。
- ・最初から路線バスで通学するという話で進んでいたならこのような状況にはなっていないかと思う。正直 PTA の想いを覆すのは難しい。
- 当初から路線バスを前提とした通学支援の方針を説明したが、当初は公表できる情報が少ない中でスクールバスを選ばれた。その後、路線延伸や社会実験など状況が変わってきたのは申し訳なく思っている。ただし、交通事業者との関係もあり、当初の部会で説明ができなかった部分が多かった点についてはご理解いただきたい。(ふるさと定住促進課)
- (ふるさと定住促進課)

- ・路線バスをスクールバスだと思って乗ればいいのか。児童が乗る区間だけ児童専用バスにできないのか。
- 専用区間を設けると乗合ではなく特定バス扱いになり乗車人数としては扱わないので、需要としては少なくなってしまう。(ふるさと定住促進課)
- ・現在、高校生はどのように通学しているのか。(教育長)
- 女子生徒は車の送迎が多く、男子生徒は自転車が多い。
- もし、高校生の乗車が多ければ増便の可能性もある。(教育長)
- ・路線バスにはシートベルトがないことを心配されている意見があったが、国土交通省令によると、定員が10人を超える車両については、高速道路で運行する車両を除き運転席とその横の席だけシートベルトがあればよいということになっている。利便性も確保する中で、路線バスは一般道のみで低速で走り、バス停には頻繁に停車するため、一般論としてシートベルトの安全性の効果は薄いということも言われている。路線バスはシートベルトをしていないことを前提にゆっくり発進するなど静かな運転をし、着席、手すり、つり革などで体を固定し、「発車します。」など警告の車内アナウンスもする。路線バスでもそのように安全確保に配慮しているという点についてはご理解いただきたい。(ふるさと定住促進課)
- ・意見交換会で事務局が提案した添乗員について、その後何か意見はあったか。(教育総務課)
- 専用スクールバスを希望する声が圧倒的に多いので、添乗員の話は話題に上がらなかった。
- ・添乗員については現役世代の保護者にとっては負担であるので、自治振興会や自治会での実施などは考えられているのか。
- 添乗員の話は通学方法が決まってから考えようとは思っているが、当然、保護者をサポートしていかなければならないと考えている。
- ・統合準備委員会で決めるのが負担という声もあるので、決定の仕方は川上委員長と相談することもできるが、どうするか。(教育長)
- この場では専用スクールバスを希望するという意見でほぼ決まっている。
- 本日来ていない委員もいるので、全体会の前に再度部会を開催し、結論を出すこともできる。(教育総務課)
- 竹田地域としても、前山地域の意見が固まっている以上、それを尊重するべきと考えているので、もう一度協議を行っても同じ結論になるのではないか。
- 意見は出尽くしており、このままでは統合協議も先に進まないのでは本日採決を取る形がいい。

⇒統合の前山地域の通学支援については、「専用スクールバス」とすることに決定。

●その他

- ・次回以降日程 未定